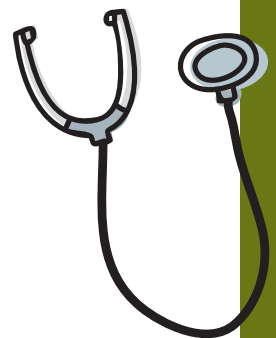
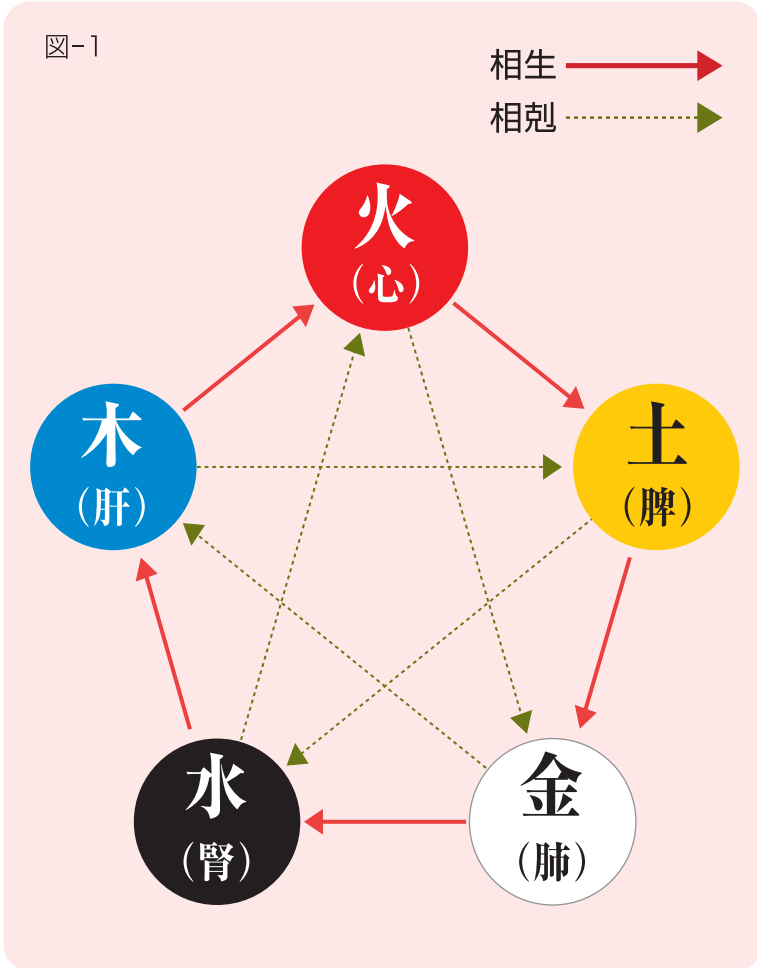


辻和之先生の

健康コーナー



「脾^ひ」について 生命力を補充する重要な臓器



「脾^ひ」は、五行の「土」に属します。中医学では、「脾」は、「胃」と共に、消化吸収に関する働きを担っていると考えられており、西洋医学の脾臓とは、生理機能が、全く異なっています。

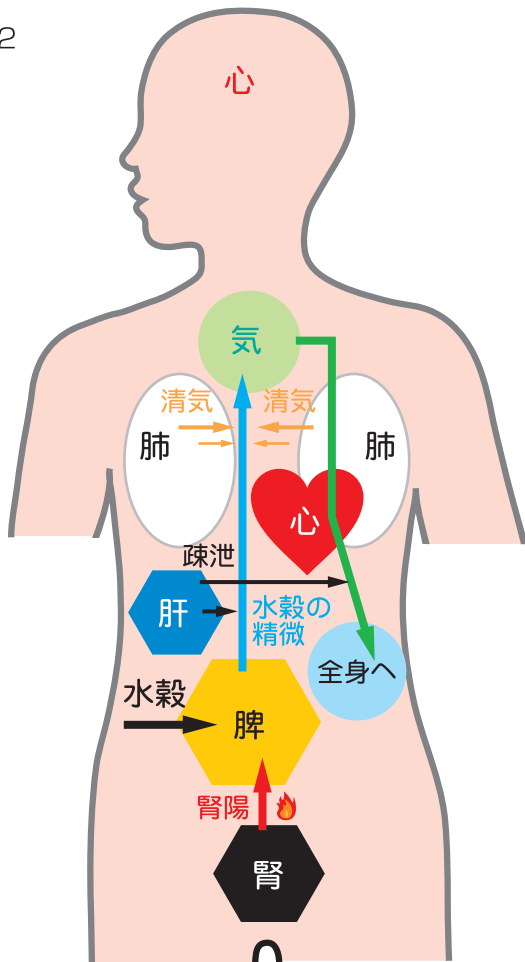
(実は、ドイツ語のMilzを日本語に訳す際に、全く生理作用が異なるにも拘わらず、翻訳者は、十分な知識がないままに、「脾」という五臓の内の一臓器の単語を借りて、脾臓と誤訳したのです。) 「脾」の作用は、以下のような作用があります。

①「脾」の働きは、単なる消化吸収だけでなく、「脾」には、「脾」によって

れた、体に必要な栄養物(中医学では、「水穀の精微^{せいび}」といいます。)を全身の各組織に供給する機能があります。

この水穀の精微は、肺からの清気(ほぼ酸素と同義)と結合して気となって、心の推动作用、肺の宣散(発散・散布といった外に向かわせるパワー)と肅降(下に向かわせるパワー)によって、さらに肝の疎泄作用(気を巡らせる作用)によって全身に配られます。さらに脾が、よくこの機能を果たすためには、腎陽の温める作用の手助けが必要で、すなわち脾によって食物から吸収された栄養素は、脾以外の心、肺、肝、腎の臓器の共同作

図-2



業によって、気が全身に配られるの
です。
②また「脾」の作用として、気以
外に血も作る作用があり、
③さらに「統血」といって血液が
血管外に漏れ出さないようにする
作用もあります。
④津液代謝の中で大きな役割
を担っており、体内の水分の吸収
と排泄を促進する機能をします。
したがって「脾」は、「気・血・津液」
全体の補充や運行に欠かせない臓
器です。このように「脾」は、この
世に生まれてから「生命力」を補
充する重要な臓器であり、「後天

の本」と言われております。
(参考までに、腎は、先天の本と言
われております。)
⑤「脾」は、気血を産生する働
きを通して、全身の筋肉に栄養を
送り、手足の力を維持しておりま
す。
⑥「脾」は、昇性を持つており、
脾によって吸収された水穀の精微
が、中焦の脾から上焦の肺に送ら
れるのは、脾気の昇性作用による
ものです。もし脾気が虚すれば、
脾気の不足に伴い、その昇性も失
われるので、胃下垂、脱肛、子宮脱
その他の内臓下垂を生じます。

「脾」の出口は、口であり、「脾」
の機能の状態により食欲や味覚が
左右されます。従って、「脾」の働
きに異常が生ずると、味が無い、
食欲がない、下痢、軟便、腹痛、胃
が重いなどの消化不良や胃腸の症
状が出現しますが、元気がない、
顔色が悪い、疲れやすい、痩せる、
手足に力が入らないなどの気血の
不足の症状もみられます。血液を
漏らさないように保つ統血の機能
障害が及ぶと、血便や不正性器出
血、皮下出血などの症状が出現し
ます。五行では、「脾」は、「黄」、「甘」、
「思」と関係し、疲れた時に甘いも
のが欲しくなったり、考え事が多
くなると、食欲がなくなることと
関係しています。「脾」は、肝によっ
て影響を受けやすく、ストレスに
よって肝における気の疎泄作用(気
の巡りをよくする作用)が阻害さ
れると、「脾」の働きが低下し、食
欲を落とす原因にもなります。こ
のことを肝脾不和といいます。
これは図1における相剋の関係
に相当しています。

「後天の本」として重要視され
る「脾」は、生命力の補充や多くの
働きを支えると同時に、物質を作

り出す場所でもあります。「脾」
は、湿を憎む性質があるため、過
剰な飲水や空腹感を伴わない義
務的な飲食が「脾」をいじめます
ので、食生活を初めとする生活習
慣を正しく持ち、「脾」に負担を
掛けないようにして、生命力の補
充を阻害しないようにします。さ
らに、肝脾不和にならないように、
ストレスを抱え込んで、肝気を病
的にいじめないように、気分を伸
びやかに保つことが必要です。

プロフィール

昭和26年 北海道江差町に生まれる
昭和50年 千葉大学薬学部卒業
昭和57年 旭川医科大学卒業
平成 4年 医学博士取得
平成10年 新十津川で
医療法人和漢全人会
花月クリニック開設

日本東洋医学会 専門医
日本糖尿病学会 専門医
日本内科学会 認定医
日本内視鏡学会 認定医



花月クリニック
医療法人和漢全人会
日本東洋医学会専門医
医学博士

辻 和之